音　楽

音楽科においては、音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとして自ら音や音楽を捉えていく力を育むことが課題です。そのため、生徒の学習状況を具体的にイメージした評価規準を設定すること、〔共通事項〕を確実に位置付けた題材を構成すること、ＩＣＴを活用し、様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることにつなげることが大切です。

Ⅰ　目標の明確化や評価の充実のポイント

育成を目指す資質・能力を明確にするためには、題材で育成する資質・能力を身に付けた生徒の学習状況を具体的にイメージし、観点別に評価規準を設定することが大切です。

評価規準を設定する際には、指導事項を踏まえ、「思考・判断・表現」の観点では、生徒の思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素を明確に設定するとともに、「主体的に学習に向かう態度」の観点では、題材で扱う教材曲や曲種等の特徴を具体的に示すことが大切です。

Ⅱ　指導計画の改善のポイント

題材を構成する際には、領域や分野ごとの事項はもとより、〔共通事項〕を確実に学習に位置付けることが大切です。そのため、〔共通事項〕の内容を支えとしながら、「音楽的な見方・考え方」を働かせた学習を展開できるように配慮する必要があります。

指導に当たっては、題材の学習において、生徒がどのように音楽を形づくっている要素をよりどころとして思考・判断するのかを教師が具体的に想定し、教材の特徴を踏まえて、取り扱う〔共通事項〕を取捨選択することが大切です。

Ⅲ　手立ての充実のポイント

ＩＣＴを活用することで、曲想と音楽の構造との関わりについての理解や表したい音楽表現についての思いや意図をもつことを促したり、自分の歌声がどのように表現されているのかを客観的に捉え、技能面の課題に対する気付きを促したりすることができます。その際、生徒が様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにすることが大切です。例えば、コンピュータのソフトウェアなどを活用し、音楽を聴くことと楽譜を見ることを同時にできるようにしたり、自分の出した声の音高や声量をコンピュータ等の画面上の図形等の変化によって捉えられるようにしたりすることによって、聴覚のみでなく、複数の感覚を関連付けて音楽を捉えていくことができるようにすることができます。

知覚・感受を支えとして自ら音や音楽を捉えていく力を育む計画の改善

＜題材名＞

「作者の思いを感じ取りながら、音楽を味わおう」（第３学年　Ｂ鑑賞）

教材名・「ブルタバ（モルダウ）」スメタナ作曲

・交響詩「フィンランディア」シベリウス作曲

＜題材の目標＞

「ブルタバ（モルダウ）」、交響詩「フィンランディア」の音楽の特徴と、その背景となる文化や歴史との関わりについて理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、「ブルタバ（モルダウ）」のよさや美しさを味わって聴き、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽と人々との生活などとの関わりに関心をもつ。

［共通事項］(1)ア（本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」、「構成」）

【Ⅰ題材の設定】
題材の学習を通して生徒にどのような資質・能力を身に付けさせたいのかを視点として題材を設定している。

【Ⅱ〔共通事項〕の焦点化】
題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素を焦点化し位置付けている。

〔参考資料〕

・音楽、図画工作、美術、工芸、書道の指導におけるＩＣＴの活用について（文部科学省）

・StuDX Style
GIGA スクール構想のもとでの中学校音楽の指導について（文部科学省）

＜題材の評価規準＞

知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知　「ブルタバ（モルダウ）」、交響詩「フィンランディア」の音楽の特徴と、その背景となる文化や歴史との関わりについて理解している。	思①「ブルタバ（モルダウ）」の旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 ②生活や社会における音楽の意味や役割について考え、「ブルタバ（モルダウ）」、交響詩「フィンランディア」のよさや美しさを味わって聴いている。	態　交響詩の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

＜題材の指導計画（３時間）＞

時数	○学習活動（◎は主な活動）・生徒の活動の様子	評価規準・評価方法等 知・技	思	態
1	○川の様子や流域の情景をオーケストラで表していることを確認する。 ・「ブルタバの主題」までの部分を聴き、想像した情景について、端末を使って交流する。 **◎作曲者が民謡の旋律を主要な主題として位置付けた意図について考える。** ・この曲の主題に気付くとともに、主題がチェコの民謡の旋律に由来していることを知る。 ・教科書を参照し、作曲者自身による標題があることを知る。 ・端末を使い、旋律の特徴が表れる部分を聴き、標題がどのように表現されているのかについて、聴き取ったことや感じ取ったことをワークシートに記入する。 ・端末を使いグループ内で意見交流した後、全体で交流する。 ○標題とそれぞれの場面の曲想の変化に着目し、本時で学習した内容を振り返り、曲全体を鑑賞する。			
2	○スメタナの祖国への思いを理解する。 ・「ブルタバ（モルダウ）」が作曲された頃のチェコの歴史について調べ、教科書を参照して確認する。 **◎作曲家がどのような願いや祈りを込めて作曲したのかについて考える。** ・チェコの歴史について調べたことと関連付けながら「ブルタバの主題（後半再現）から終わりまで」を鑑賞し、曲想の変化と音楽で表そうとしている内容との関わりについてワークシートにまとめる。 ○ワークシートの内容を交流し、本時で学習した部分を振り返り、鑑賞をする。 【生徒の記入例】 ・「聖ヨハネの急流」の金管楽器による演奏は激しく、オーストリアの圧政に苦しむ様子を表しているように感じた。 ・「幅広く流れるブルタバ」の最後のブルタバの主題は長調で明るい雰囲気で演奏され、チェコ民族の独立と勝利を表しているように感じた。	〔知〕観察、ワークシート	〔思①〕観察、ワークシート	
3	**◎「ブルタバ（モルダウ）」と交響詩「フィンランディア」に共通する作曲家の考えや思いなどを理解する。** ・交響詩「フィンランディア」の指定された部分について曲想を感じとりながら鑑賞し、フィンランドの独立を願ったシベリウスが、音楽で表そうとした内容を考え、ワークシートにまとめる。 **◎題材全体について学習のまとめを行う。** 【生徒の記入例】 ・「フィンランディア」も後半に向けて明るい曲調に変化するので、「ブルタバ」と同様、不幸な状況でも未来を信じ、明るく生きていこうという作曲者の思いがこめられていると感じた。		〔思②〕観察、ワークシート、発言	〔主〕観察、ワークシート、発言

【Ⅱ題材の見通し】
・題材の目標を達成できるよう、題材などのまとまりを見通した学習内容を設定し、「何を学ぶか」を明確にしている。

【Ⅱ指導内容の焦点化】
・旋律の特徴が表れる部分を限定し聴かせることで、生徒が音楽を形づくっている要素やその働きの感受を深められるようにしている。

【Ⅲ１人１台端末の活用】
・クラウドに保存された自分が視聴したい演奏の音源や動画を繰り返し聴くことで、音楽を形づくっている要素やその働きの感受を深められるようにしている。

【Ⅲ言語活動の充実】
・音や音楽によるコミュニケーションが充実するよう、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けている。

【Ⅰ評価の充実のポイント】
・指導の改善に生かすことができるよう、題材の内容や時間のまとまりごとに実現状況を把握できる段階で観点別の学習状況の評価を行うなど、評価の場面を精選している。

※本題材では、第１時から第３時の生徒の取組状況を観察し、ワークシートの生徒の記述を補完的に扱いながら、第３時に「主体的に取り組む態度」を総括的に評価することとしている。